

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第107号 2025年6月

事務局: 〒153-0065 目黒区中町1-33-2 Tel: 03-6789-6549

発行人: 川崎 秀一 編集長: 細谷 清 事務局長: 伊東 佳行

ホームページURL: <http://me96tomon-waseda.la.coocon.jp/>

2025年定時総会開催のご案内

2025年目黒稲門会定時総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様にはご多用中と存じますが、是非ともご出席頂きますようご案内申し上げます。

第1部総会では、2024年度事業報告、同決算報告および監査報告、2025年度事業計画案、同予算案等の審議を予定しております。

第2部の懇親会では、早稲田大学校友で太田道灌の子孫でいらっしゃる太田資暁氏の講演を企画しております。夏の熱気に乗せて大いに語り、大いに飲み、早稲田の絆を深めたいと存じます。ご家族お揃いのご参加を歓迎致します。

スマートカジュアル(襟付き)でご参加ください。

記

1. 日時 2025年7月6日(日)

受付開始 16時

総会・懇親会 16時30分～19時

第1部 総会 16時30分より

- ・2024年度事業報告
- ・同決算報告及び監査報告
- ・2025年度事業計画案
- ・同予算案

第2部 懇親会

- ・講演 太田資暁氏

「江戸の成り立ちと江戸城天守再建」

2. 会場 ホテル雅叙園東京 3階「シリウスの間」

目黒区下目黒1-8-1、TEL03-3491-4111(代表)

3. 会費 会員 10,000円、同伴家族 5,000円

下記口座に事前振込をお願いします。

- ・三菱UFJ銀行 学芸大学駅前支店
(普) 0450905 目黒稲門会 伊東佳行
(メグロトウモンカイ イトウヨシユキ)
- ・ゆうちょ銀行

口座番号 : (当座) 00170-9-94620

加入者名 : 目黒稲門会、口座名義人: 伊東佳行

当日、受付担当会員も総会に参加する時間を確保するため、皆様のご理解とご協力をお願いします。

4. 同封の返信用はがきを、6月23日(月)までにご返送下さい。

電子版会報受取り者のご出欠確認

下記のリンク先のフォームよりご出欠のご回答をお願い致します。

Ctrl キーを押しながら下記の青字をクリックするとリンク先が表示されます:

[総会出欠回答フォーム](#)

回答項目:

- ・お名前
- ・出欠
- ・同伴有無
- ・会費入金口座

☆

太田資暁(オオタスケアキ)氏のご紹介

1943年東京生まれ

1965年早稲田大学商学部卒業

同年東京海上火災保険株式

会社 入社、その後 同社役員、専務取締役

2000年 東京海上あんしん生命社長

2006年退任

現在 NPO法人「太田道灌顕彰会」理事長

認定NPO法人「江戸城天守を再建する会」会長



1457年(長祿元年)、太田道灌によって築城された江戸城は、徳川家康入城後、2代秀忠、3代家光の時代に拡大され、1636年に大城郭が完成。その後「明暦の大火」で大天守が焼失し、幕府は復興を期するも財政難のため天守までの再建は叶わず、現在は天守台のみが残ります。

「江戸城天守を再建する会」では、日本の歴史、伝統、文化、技術の継承と、世界に向けた発信のため、天守再建運動を行っています。太田資暁氏(太田道灌の子孫)から「令和の築城」について話をお聞きください。

浅海敏之相談役を悼む

保井 正 (59年政経)

浅海敏之相談役の訃報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。

令和6年4月5日荒瀬修一郎氏(1953年法)のお通夜で浅海さんとお会いしてご自宅までお送りしたのが最後でした。

浅海さんは1998年6月早稲田大学校友会の要請を受けて目黒稲門会の設立準備委員会を設



置しました。1999年に初代幹事長に就任し、存在感の大きな幹事長として眞仁田勉初代会長(1953年法/元東京都副知事)、樋口定廣(1942年専法)事務局長を強力に支えました。

第二代加藤榮護会長、第三代八幡和三郎会長に仕え、2010年八幡会長の急逝後会長代行を務め、設立10周年定時総会・祝賀会を盛大に実施し、第4代大野利幸会長に引継ぎました。

目黒稲門会設立時、初代会長に誰を選任するかに当たり、鈴木都知事時代に副知事をされた眞仁田勉さんが、目黒区に住んでいらっしゃるということで、浅海さんら10人の役員が当時、東京都競馬の理事長をされていた眞仁田さんを日本橋高島屋近くの事務所にお尋ねしてお引き受け頂いたとの事。

浅海さんと私は区立中目黒小学校の同窓生で浅海さん6年2組、私が6年3組でした。彼は早稲田中学校、私は区立目黒第二中学校、そして早稲田高等学院で同窓になり、早稲田政経学部を卒業しました。目黒稲門会に誘っていただいたのも浅海さんでした。ゴルフが大変上手で2001年第一回奥島総長杯ゴルフコンペで優勝しています。第二十回ゴルフ部会では浅海さんの長女の三部由夏子さんが優勝しています。また国立劇場にお勤めの際は能の金春流の家元と敏ちゃん敏ちゃんの仲でゴルフを重ねていたそうです。2007年新年会講演会に奥島孝康前総長をお招きして「早稲田人の心の原点・都の西北」と題してお話を伺いました。これも浅海さんのご尽力でした。

ここ5年ほどは体調がすぐれず、会報には健康についてのアドバイスの投稿がおおく寄せられていました。88歳の米寿までラグビー部と早稲田中学校の人脈をそして目黒稲門会の25年にわたる交友を活かして人生を堪能されたと思います。

「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」、**「男の財産は友にあり」**、まさに浅海敏之氏そのものです。

正覚寺の檀家総代でもありました。合掌

浅海先輩を偲んで

吉田 博行 (67年政経)

令和7年3月11日、浅海先輩のご逝去の一報は、ご長男の浅海賢大さんからの電話でした。入院されていると伺ってはいましたが、まずは驚きで声が出ませんでした。

浅海さんは、目黒稲門会の立ち上げから、今日に至るまで、稲門会の運営・発展に尽力されてきました。幹事長として、母校との接点、他地区稲門会との関わりを積極的に進めて、初代・眞仁田会長はじめ、各会長の懐刀として尽力されました、神宮球場の早慶戦、秩父の宮ラクビー場での早明戦と、一緒に大きな声で応援をした覚えがあります。



会長をお願いしても「俺の役目は裏で支える事」と頑なに断り続けられました。一度だけ、現職の第3代八幡会長が病で倒れ、次期会長が決まるまで3ヶ月の臨時会長代行を引き受けて頂いたことがありました。

私との関わりは、目黒稲門会に入会した時点からでしたが、特に、事務局長を仰せつけられてから、公私に渡り、ご指導、ご鞭撻を賜り、現在の私が存在している賜物と思います。

10周年記念総会で自らバーテンを引き受けて、林田先輩とシェイカーを振って、希望者にカクテルを振舞っていた姿は忘れません。

また、第1回総長杯ゴルフコンペで優勝し、時の奥島総長から優勝杯を受けた、ゴルフの腕は確かだったと思います。

カラオケ部会の復活にも、厳しく督促をされ菊地カラオケ分科会世話人の下、再スタートしてからは熱心に参加され、元気にマイクを持っていました。



何時も声の大きかった浅海先輩。目黒稲門会の行く末を見守って下さい。浅海先輩の教えを、目黒稲門会の発展の道しるべとして進んで行きます。

どうぞ安らかに眠り下さい。有難うございました。

合掌

あの声はもう聞かれぬと梅の花 博行

(令和7年4月11日)

各部会からの案内・報告

俳句部会

第176回「俳句部会報告」

開催日 2025年4月22日(火) (順不同)

- | | |
|--------|------------------|
| 川井素山 | 春惜しむ一夜泊りの淡海の灯 |
| 保井寶正 | 墨堤の余花を尋ねて川下り |
| 佐久間喬 | 久方ぶり上戸も喰ふやわらび餅 |
| 丸山酔宵子 | 落ちてなほ彩り褪せぬ藪椿 |
| 吉田啓悟 | 惜しむでも嘆くでもなく春の泥 |
| 青木英林 | いつまでも気を付けのまま葱坊主 |
| 山本草風 | やまひ人去り行く春に手を延ばす |
| 渡辺鯨波 | 春泥を颯爽と飛び鞍馬寺 |
| 原 晶如 | 華やげる色はむなしく花大根 |
| 佐久間たか子 | 巣箱朽ち転居の知らせ来ぬままに |
| 中村双月 | 春泥や神官裾を持ち上げる |
| 菊池崇之 | 下し立てクツに一筋春の泥 |
| 永井正孝 | 落ち椿アスファルト道を染めはじめ |
| 泉 宗季 | まつさらの靴おろしたり花時雨 |

中原主宰の選んだ秀句と評

春惜しむ一夜泊りの淡海の灯
 琵琶湖に一泊で旅した旅情の景がよく描かれている
 巣箱朽ち転居の知らせ来ぬままに
 人間社会であれば何か転居の通知があるのに・・・

今月は川井さんが出句された四句全てが秀句に選ばれるという快挙を遂げられたため、上記以外の秀句はありません。

俳句部会長 佐久間 喬

ゴルフ部会



第54回定例ゴルフコンペ
 4月17日 小田急藤沢ゴルフクラブ

4月17日に第54回定例ゴルフコンペを小田急藤沢ゴルフクラブで開催しました。

午前中は風もなく素晴らしい天気でしたが午後は一変した強風に皆さん大分苦労したようです。

参加者は4組15名(うち初参加者2名)で、優勝は狩野さん、2位安居院さん、3位は初参加の山中さんとなりました。ブービー賞は川崎さんでした。次回は8月に河口湖CCを予定しています。

ゴルフ部会長 石橋 義久

いち月会へのお誘い

いち月会(いちげつかい)は目黒稲門会の会員同志の懇親の会です。



いち月会 5月8日 梅山飯店

開催日程は毎月第一月曜日の夕方17時頃から始まります。

場所は、自由が丘駅近くの料理店で集っています。いつも15人前後の方が参加されます。

内容としては、各部会の思い出話から、健康・人間関係・世間話等多彩な話題に花が咲きます。

最近、「梅山飯店」(目黒区自由が丘2-11-16)、「土間土間」自由が丘店(自由が丘2-10-8 自由が丘エヌケービル5F)で行っています。

自由が丘は飲食店が多く、夫々が工夫を凝らしており、少し趣向を変えてこれから行きたいと興味のそそられる「洒落た」お店を検討しています：

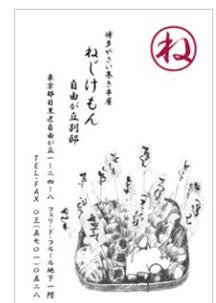
①博多野菜巻き串焼きの店

「ねじけもん」自由が丘別邸

②くいもの屋「わん」自由が丘店

③自由が丘「魚齋」(うおなり)

自由が丘の「洒落た」お店はその名刺にも工夫を凝らしています：



ご参加されたい方は電話かメールで会に連絡するだけです。初回参加はご招待(無料)します。皆様のご参加をお待ちしております。

いち月会部会長 菊地 崇之

ウォーキング部会

第172回ウォーキング部会例会報告 参加7名

2025年3月18日(火)開催の例会は目黒稲門会設立25周年記念例会として、栃木県足利市まで足を延ばした。いつもより早い午前9時20分にJR渋谷駅ハチ公銅像前に集合、JR湘南新宿線に乗って久喜駅まで行き、東武伊勢崎線に乗継、さらに同伊勢崎線館林駅で乗換え東武足利市駅に着いたのは12時近かった。



足利学校門前にて

15分ほどで日本遺産・日本最古の学校と言われる足利学校に到着した。創立は、奈良時代、平安時代(小野篁)、鎌倉時代(足利芳兼)など諸説があるが、室町時代に上杉憲実が現在国宝に指定されている書籍群を寄進し、庠主(しょうしゅ・学長)制度を設けたことから、存在が知られるようになった。

1549年(天文18年)フランシスコ・ザビエルがその報告の中で「日本国中尤も大にして、もっとも有名な坂東の大学」と紹介するほどだった。復元された方丈(講義や接客の場)や庫裡、書院などを見学し、往古の学生たちの勉強ぶりに思いを馳せた。

続いて、隣接する足利氏の寺、鏝阿寺(ばんなじ)へ向かった。



鏝阿寺本堂(足利市HPより)

鏝阿寺は、足利氏第二代芳兼公が設立したとされ、本堂は国宝に指定されている。寺域はかつて足利氏の居宅(城館)だったと見え、周囲は掘割で囲まれている。

歴代足利將軍の木造が安置されている一切経堂も有名だが、生憎住職不在のため拝観は叶わなかった。



鏝阿寺一切経堂

樹齢650年超の大銀杏は見事で、後ろの多宝塔に良く似合う風景だった。



鏝阿寺多宝塔と樹齢650年超の大銀杏

次は、鏝阿寺からバス通りに出て、コミュニティバスで移動、最寄りの停留所で降りて歩くこと15分の「草雲美術館」を訪問した。江戸時代末から明治にかけて活躍した、足利藩士であり、南画家の田崎草雲の作品を展示している美術館である。鄙にも稀、とはこのことか。明治期に内外で活躍した画家で、明治天皇の命で皇居で杉戸の絵を制作したほどの画家の、素晴らしい作品を見ることができた。



富嶽図

栃木県指定文化財
絹本墨画
154.0×154.0cm
1894(明治27)年

直径154cmの円形絹本に水墨をもって描かれた富嶽図ですが、併せて見るものは、その構図の雄大さと筆力の雄渾なるに圧倒されます。一気に引かれた墨線の力強さ、そして流れ行く雲によって富嶽の静寂はより感じられます。

田崎草雲筆 富嶽図
(草雲美術館パンフレットより)

帰路は、渡良瀬川沿いにのんびりと春の日差しを浴びながらのウォーキングとなった。足利市駅に戻る手前に渡良瀬橋がある。きれいなトラス橋である。かつて森高千里さんの歌で大ヒットしたと言われる「渡良瀬橋」をYouTubeで聞きながら渡ってみた。ご当地で聞くと何とも言えない良い曲だった。

ウォーキング部会長 吉野 博明

「音楽を楽しむ会」一年を振り返って

世話人 広井 幹也

私は目黒稲門会には、2023年11月に入会しました。いきさつは、地域にある目黒稲門会の存在は知っていましたが、2023年9月に仕事をリタイアし、やっと自由になる時間が増えたので私の趣味である音楽（大学在学中は、フォークソングクラブに所属して、ギターを弾きながら歌っていました）に少し時間を掛けていきたいと思い、目黒稲門会のホームページを見てみました。色々な部会がありましたが、私のやりたい音楽に関連する部会一つもありませんでした。（休会中のカラオケ部会は有りましたが）

それならば、自分で新しく立上げようと思い、入会してすぐに企画・提案しました。そして、はれて2024年2月3日「第一回音楽を楽しむ会」を開催するこ



世話人3人(山内、小出、広井)による
バーベキュー大会での演奏 (2024年10月)

とができました。初回参加者は15名で、その中の10名の方は現在でも継続参加して頂いております。



新年会でのパフォーマンス(校歌二部合唱)
(2025年1月)

そして、2025年2月15日には、目黒稲門会25周年記念企画として、第11回スペシャル大会を開くことができました。内容は、何時もの活動(①ボイストレーニング ②リズムを習得して音を出す ③合唱 ④エクササイズ) プラス有志による演奏歌唱などで、ゲストの方も参加して盛会のうち無事終了しました。

会は丸一年が過ぎ、この4月よりマンネリを防ぐために内容を一部リニューアルして、二年目に臨んでいます。それは、各曲を歌い放しにしないで、深掘りする曲(歌い方のアドバイスや、ハモリの練習など)を選定したり、歌詞の意味を考え丁寧に歌うことなどです。そして、目黒稲門会の新年会や総会で、皆さんに成果を発表することを目標としております。活動内容はホームページに都度報告させて

頂いておりますが、私達の会は単なる歌声サークルではなく、歌を歌う他に体を動かしたり、リズムで遊んだり様々です。体を動かし、声を出して楽しむことは、ストレス解消・心と脳の活性化につながり、これが長生きの秘訣です。

これからでも遅くありません。会は、いつでも自由に参加できます。私達と一緒に音楽を楽しみ、そして人生を楽しみましょう！

ぜひ、お待ちしております。



永田さんと川崎さんによる歌唱演奏
(2025年2月)



Hikaruさんリードによる
エクササイズ (2025年2月)

会員の広場

早稲田大学探検部

細貝 悠 (19年社科)



「世界の可能性を拓け」

私は大学一年の春に、大量に積み上がる新歓チラシの中にこの言葉をみつけ、部室の扉を開けました。そこにあったのは今までの18年間で、感じたことのない無秩序と可能性。探検部という名前すら知らなかった私は、その魔力に惹かれ、いつの間にか生活の中心になっていきました。昼間はわずかばかりの授業をうけ、夕方からは部室にこもり、夜は安く飲む。深夜に探検部と繋がりがあある会社でアルバイトをしては、ほとんど活動費に消えていく。駅前のワセメシよりも、家で困窮メシ。ほぼ具なしお好み焼きと醤油マヨネーズパスタをよく食べていたのを覚えています。

探検部の本分は、海外遠征をおこなうこと。私が行った数々の遠征の全てが、私にとって刺激的なものでした。一年生の夏に行った「インドネシア新洞窟調査」では、まだ



インドネシア新洞窟調査の際の写真
村から村へ移動して洞窟を探した

見つけられていない洞窟を探すために、スラウェシ島からセラム島に渡り、現地と同じような活動をしている学生達と一緒に一ヶ月間テント泊生活。そこでは、100mの縦穴にロープ一本でぶら下がっている際にジョイントが外れかけたり、脚に大やけどを負ったり、謎の高熱にうなされたりと、日々トラブルに見舞われました。そして、私が最も力を入れていたのが、「ナイル河最長源流調査」です。河口から最も遠い一滴をルワンダへ探しに行くというもの。地中海に注ぎ込む世界最長のナイル河。この河の水源がどこにあるかは、探検史上最大テーマの一つでした。ビクトリア湖が水源であることは判明していましたが、どこが最も長い水源かを確定させる探検は続いていたのです。そうした中1969年早大探検部の部員が最長水源を見つけたにも関わらず、国際的に発表しておらず、2006年イギリス隊が新たに発見した水源をルワンダ政府が



ナイル川の水源(ルワンダ)

公認。しかし調べていくとイギリス隊が見つけたその場所は本当に最長水源なのかという疑問が出てきました。イギリス隊が見つけたものは位置、高度から考えると本来あるべき分水嶺の反対側にあり、ナイル河につながる水源ではないと推測したのです。私たちはそのイギリス隊が主張する最長水源に行き、そこから川をくだり、ナイル河に繋がっていないことを証明し、そしてその後に本当のナイル河最長水源はどこにあるのかを探す計画をたてました。結論から申し上げますと、思うような結果は得られませんでした。何度も審議し、何度も現地の関係各所とやりとりし、行く前にルワンダ政府に調査許可を受けていたにも関わらず、現地で急遽NGに。調整のために数週間の足止めをくらい、ルワンダの僻地で、毎日、日本でいう国土交通省や政府高官と交渉をしました。最終的に川下りではなく、水源を分けている分水嶺を歩くことで、一度も川が横切らないと確認し、イギリス隊のポイントは間違っていると証明する活動はおこないませんでした。ただこれは、地下を通して流れている可能性、そもそも私達が考えている分水嶺が間違っている可能性を捨てきれず、間接的に否定できても、世に公表できる内容ではありません

間違っている可能性を捨てきれず、間接的に否定できても、世に公表できる内容ではありません



1969年に早稲田大学探検部が見つけた水源 50年近く経っても湧いていた

ただただ悔しくも、私が計画した本計画は、後輩に引き継がれ、今なお、本当のナイルの水源はどこか探し続けられています。たまに周囲からは高い費用を払い、観光地でもない場所に何日間もかけて、何故行くのかと言われることがあります。確かに探検は、様々な情報が溢れている現代において、数百年前に求められていたような、国益のための新たな土地を見つけるという元来の意義を失っているかもしれません。しかし、それでも活動することで、誰も見たことない景色を見られるかもしれない、もしかしたら自分の活動が人々にとっての新たな価値に繋がるという期待があるからこそ、探検には胸を躍らされます。

この想いは今も変わっていません。議員一人が議会で発言しても受け入れられない現状に、いつも歯がゆく感じます。しかし、自分の言葉で、困っている方々のために、少しでも世の中を良いほうへ変えられる、わずかでも世の中の可能性を拓くことができると信じられるからこそ、議員の仕事に魅力を感じ、日々働かせていただいています。探検部で出会った「世界の可能性を拓け」という言葉を胸に、今後も政治の世界で一步一步精進して参ります。

会員ギャラリー

『大谷翔平とデコピンの始球式』水彩 半切

佐伯 文子 (76年二文)

2024年8月28日、大谷翔平と愛犬デコピンの始球式がありました。犬種がオランダ原産の「コーイケルホンディエ」で、「デコイ」とつけられた名からちなんで「デコピン」と名付けたそうです。デコピンがマウンドからホームベースにいる大谷のもとに見事に真っすぐ届け、見事大役を成し遂げた。あっぱれです。素晴らしい微笑ましいシーンに感動しました。この仲睦ましい場面を描きました。世界一の大谷翔平と世界一有名になっている愛犬の絆は素晴らしいです。史上初の50本塁打と50盗塁(54



本塁打と59盗塁)の大偉業、3度目のMVP、WBCドジャーズ優勝。本当に良かったです。感動ありがとうございます！！

『憧れのサマルカンド』

丸山 忠生 (69年法)

成田を飛び立って日本海、朝鮮半島を横切り、広大な中国大地をたっぷりと横断し、天山山脈、エベレストを眼下に10時間。シルクロードのロマンを求め、憧れのウズベキスタンに向かったのである。



イスラム文化のティムール帝国と蒙古帝国との葛藤の歴史が残る巨大な城壁やモスクの世界遺産の数々。「東方の真珠」といわれるサマルカンドはアレキサンダー大王の頃からのシルクロードの中心である。レギスタン広場のイスラム神学校やモスク群の巨大さとその繊細且つ緻密なタイルには圧倒させられる。左右に聳える塔はコーランを轟かせる役目を果たすとのこと。螺旋階段を登ってみると、サマルカンドの街並みが眼下に広がっている。

映画鑑賞 懐かしの邦画

内山 信夫 (85年教育)

突然ですが邦画の史上ランキングについてお話します。90年代に実施の文芸春秋、NHK、キネマ旬報

のオールタイム・ベスト(写真参照)を参考に昭和の邦画を回顧してみましょう。

三つ全部にベスト20入りは「七人の侍、東京物語、浮雲、二十四の瞳、羅生門、生きる、雨月物語、西鶴一代女」の八本で、全て昭和20年代後半から30年代にかけての所謂「日本映画の黄金時代」の作品です。



「七人の侍」、泥雨の集団戦闘シーンによってアメリカではジョン・フォードと並ぶアクション監督の地位が確立されました。因みに、隣のスタジオでカメラの奪い合いをしていたのが「ゴジラ」です。世界映画史に輝く両作品がお隣で撮影されていたんですね。

「生きる」で主役を演じた志村喬は、七人の侍でリーダー、ゴジラでは恐竜博士、恐るべき男です。「羅生門」は映画芸術風で、面白いというより正しい。娯楽性なら「用心棒」「天国と地獄」「赤ひげ」、黒澤三船の後期三作が秀逸でしょう。

「東京物語」は「七人の侍」と共に邦画最強のツートップ。小津といえば「あ、小津」って一目でわかるローアングル映像(カメラを下から構えて胸から上を真正面から撮る)で有名です。黒澤と小津って、あの頃なら三原、水原みたいなモンですかね？

「雨月」「西鶴」の溝口健二は黒澤、小津と共に「日本映画三大監督」の一人ですが、最も玄人受けの作風です。個人的には「近松物語」がわかり易くて好きです。

木下恵介の「二十四の瞳」は、何度も映像化されていますが、これが本家です。映画のおかげで小説も有名になったのは「砂の器」的な逆転現象です。

「浮雲」は、ダメ男とグチ女の救い難い腐れ縁を刹那的、情念的に描いた傑作。主演の森雅之(有島武郎の息子)とデコちゃん(高峰秀子)の超絶演技に圧倒されますが、特に「二十四の瞳」で大石先生を演じたデコちゃんの変幻自在ぶりには感心するばかりです。

さて駆け足で振り返って見ましたが、ここに登場した作品は「純文学映画」と言えます。おや？横から「何かお忘れじゃありませんか？」の一声。多羅尾伴内や裕次郎から始まって、東映時代劇、任侠路線、雷蔵に勝ちゃん、若大将に社長、駅前シリーズ、そして寅次郎等々、ランキングには登場しない「量産型大衆映画」こそが娯楽の何たるかを教えてくれた昭和映画の屋台骨であったことを最後に力説しておきます。それではまたお会いしましょうネ。サヨナラ サヨナラ サヨナラ

新入会員

嘉瀬 隆幸 (かせたかゆき)(91年政経) 碑文谷
はじめまして。

ゼミは日本政治思想史の兼近ゼミで、卒論のテーマは石橋湛山でした。

在学中の思い出といえばラグビーの応援です。

日本代表にもなった堀越と今泉が同期です。1年生の時が特に印象的で、初めての観戦があの「雪の早明戦」でした。

熱気でスクラムに湯気が上がり、声を枯らして応援する。まさに早稲田の魂を感じました。

そのシーズンは大学選手権も優勝し「荒ぶる」を聞きました。

ちなみに今年1月の決勝戦も応援に行きました。久々の「荒ぶる」に期待したのですが、今一步及ばず。残念でした。

出身は長野市です。目黒区に住んでまもなく30年になります。

稲門会に入るのは初めてです。セカンドライフを意識する年齢となり、地域での活動に参加したいと思っています。スポーツ観戦であらためて早稲田マインドを感じたいです。

お酒はよく飲みます。

どうぞよろしくお願ひいたします。



福井 佳奈子 (ふくいかなこ)(80年一文) 上目黒
はじめまして。

フランス文学科卒業で、卒論のテーマはシュールレアリスム文学でした。目黒区で生まれ、結婚後は目黒ゴルフ場近くの実家を改装して住んでおります。

都立青山高校の在学中演劇部に所属していた流れで、大学時代は小さな劇団で役者をしておりました。

卒業後は外資系企業、アサヒビール、エノテカで飲食店向けに泥臭い外回り営業を担当、ソムリエの資格を取りワインや洋酒を売り歩いていました。退職して3年、今は株の投資やフランス語の勉強(やり直し)に専念しています。毎朝のウォーキングとラジオ体操、和太鼓教室では年上のお友達もたくさんできました。ドライブや飲み会、映画、野球観戦も好きで虎キチです。

小学校、中学、高校の友達とはよく会って飲んだりするのになぜか大学の友人との交流が無く、今回こちらに参加させていただくことに致しました。

Facebookには本名で毎日投稿しておりますのでよろしければお友達になってください。

どうぞよろしくお願ひ致します。



田畑 玲 (たばたあきら)(91年法) 目黒
横浜市の郊外の出身です(途中鹿児島県にも住んでいました。)

小学校から高校まで徒歩で通学するような狭い世界で過ごしていた私は、早稲田に入学したとき自分の前に大きな新しい世界が広がっているように感じられたことを今でも鮮明に覚えています。

在学中はサークル活動に明け暮れて勉強熱心な学生ではなかったのですが、就職して、海外の他の大学で学ぶようになってから早稲田で経験したことの大切さを改めて感じた次第です。

目黒に住んで25年、仕事の忙しさに流されて忘れていたのですが、最近改めて学びたいこと、身に着けたいことが多いと感じて、このところは時間があれば読書三昧の日々です。

また、数年前趣味を兼ねて通訳案内士の資格を取得したのですが、全く活用できておらず、さきざきは日本の文化や歴史を伝える仕事ができたらなどと考えております。

どうぞよろしくお願ひ致します。



お悔やみ申し上げます

(敬称略)

浅海 敏之 (59年政経) 25年3月11日(88歳)

事務局からのお知らせ

会員の皆様には登録していただいたメールアドレス宛に、部会からのお知らせやイベントの開催情報などを、一斉送信のメールでお送りしています。

事務局からの一斉送信メールが届いていない方がいらっしゃいましたら、事務局まで連絡をお願いいたします。

事務局メールアドレス：

meguro-tomonkai@nifty.com

編集後記

新緑が鮮やかな青葉の中に、姿凛々しき立葵と純白の爽やかな柚子の花に、気持ち洗われます。早朝に散歩する林試の森公園では、エゴノキの白い花が散り終わり、くすのきの透明感のある小粒な花が散り始めて、木の下を色染めています。

初夏の息吹が満ちたこの季節に負けない、校友の熱気溢れる会報107号をお届けします。

少し気合が入り過ぎているでしょうか。(細谷 記)